

6 フィードバック:

行動に対して迅速で情報になるフィードバックがされなければならない。

- a. 直接, 理解・判断され, 評価されることのできる情報
- b. フィードバックの度合い(初心者と専門家)
- c. 抽象的, 一般的ではなく明確で特異的なものか
- d. 反応時間
 - ・瞬時な反応は 0.1 秒
 - ・途切れない考えは 1.0 秒
 - ・注意の限界は 10 秒

7 柔軟性: 柔軟性と効率性

利用者は常に学習し, 異なっている。利用者がカスタマイズできる柔軟性と動作を迅速化できるようなショートカットを提供する。

- a. 経験のある利用者に対するショートカット
- b. 頻回な操作に対するショートカットやマクロ
- c. 処理をまとめることによる技術の習得
- d. 例:
 - ・略語, ファンクションキー, ホットキー, 命令キー, マクロ, エイリアス, テンプレート, 先行入力, ブックマーク, ホットリンク, ヒストリー, 初期値など

8 メッセージ: 良いエラーメッセージ

メッセージは, 利用者がエラーの本質を理解し, エラーから学習し, 正常な状態に戻れるように十分な情報を与えるものでなければならない。

- a. 明快な言葉で, 曖昧なコードを避ける。曖昧なコードの例「システムが強制終了, エラーコード147」
- b. 曖昧や一般的ではなく, 正確であること。一般的なコメントの例「書類が開けません」
- c. 建設的であること
- d. 丁寧であること。失礼なメッセージの例「違法な行為です」「中断しました」「システムが強制終了しました」「重大なエラーです」など。

9 過失: 過失を防ぐ

まず第一に偶発的な出来事から生じる過失を防ぐインタフェースを設計していることが非常に好ましい。

- a. 過失ができないインタフェースであること
- b. モードを回避できること。(例えば, vi, テキストの回りこみ). さもなければ十分な情報を使用者にフィードバックする。例えば違う音をだすなど。
- c. 行動の過失対評価の過失
- d. さまざまなメモ用紙やミス

10 完了:明確な完了

あらゆる作業には、開始がありそして完了がある。使用者には作業の完了が明確に通知されるべきである。

- a. 作業の開始, 作業中, 作業完了が明確であること。
- b. 行動の7段階が全て網羅されていること
- c. 目標が達成されたことやそれにより現在のスタックが開放されたことが明確に使用者にフィードバックされること。良い完了の例としては多くの対話形式をもちいていること

11 動作前の状況に戻す: 元に戻す動作

使用者はエラーを復旧することが認められるべきである。元に戻す動作も予備的な習得を促進する。

- a. いろいろなレベルで作業前に戻せること: 1動作、複数の動作単位、また動作一連の作業1セット単位
- b. 多重の段階で作業前の段階に戻せること
- c. 予備的な習得を促進すること
- d. 重大な過失を防ぐこと

12 言語: 使用者の言語を使うこと。

言語は常に、想定される使用者に理解可能な様式で提示されなければならない。

- a. 言葉は標準的な意味合いで使われること。
- b. 特定集団のための特定の言語
- c. 使用者の定義した別名
- d. 使用者の視点。例:「我々はあなたの為に4枚の切符を買った」(悪い例)
対「あなたは4枚の切符を買った」(良い例)

13 権限: 機器のコントロール権限が利用者にあること

機器にコントロールされているという印象を使用者に与えないこと。

- a. 使用者は動作の応答者ではなく、行為を始める者であること。
- b. 驚くような反応, 予想外の結果, 一連の冗長な反応等を避けること。

14 説明書: 操作説明書とFAQ

必要時に常に「ヘルプ」が与えられること。

- a. 状況に応じた「ヘルプ」であること。
 - b. 「ヘルプ」の4型
 - ・作業志向
 - ・あいうえお順
 - ・意味的な構造
 - ・検索
 - c. 目次に挿入されている「ヘルプ」
-

図 1. フィードバックシステムの例

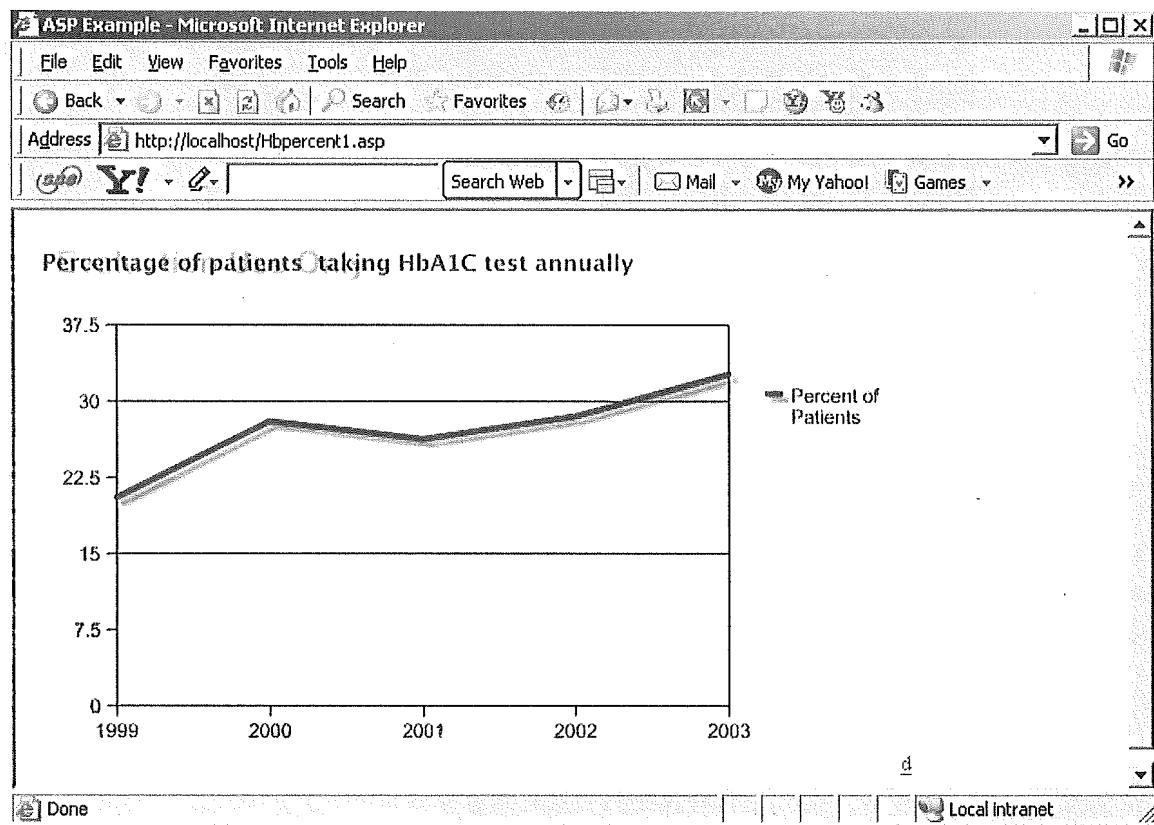
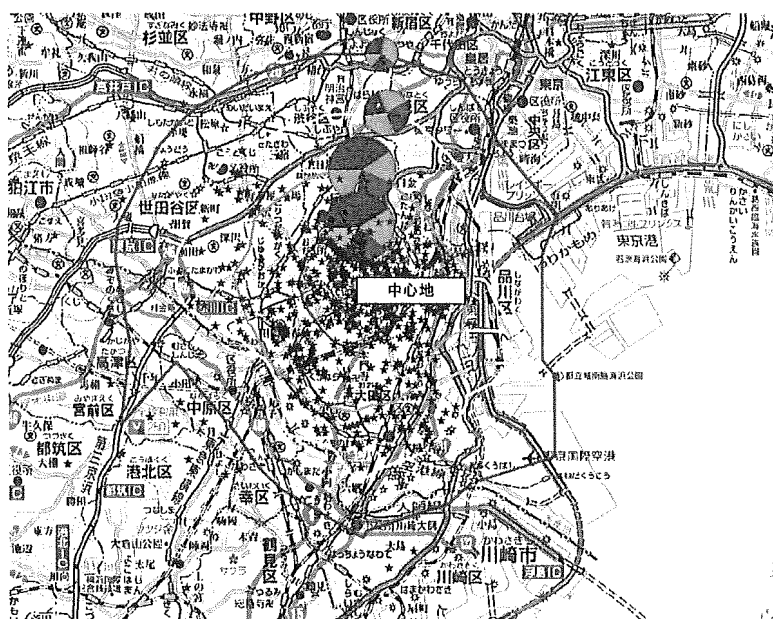


図2 地理情報システム活用の例



各到達圏内の疾患分布

各到達圏内の疾患別患者分布

	CPAOA	外傷	中毒	脳卒中	心疾患	他内科	熱傷	合計
5分圏内	107	51	26	28	3	41	2	258
5-10分圏内	98	39	33	18	5	48	0	241
10-15分圏内	23	28	14	19	2	33	3	122
15-20分圏内	16	20	5	9	0	9	0	59



65歳以上人口割合と患者発生頻度

Ⅲ 研究成果の刊行に関する一覧

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の 編集者名	書 籍 名	出版社名	出版地	出版年	ページ
特になし							

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
小林志津子、斉藤 繭子、片岡明美、 大野真司、中村清 吾、福井次矢、小 山弘、新保卓 郎.	日本人女性の乳癌検診 受診行動の促進要因と 阻害要因の検討	日乳癌検診学 会誌 (J. Jpn. Assoc . Breast Cancer Screen.)	15(1)	69-74	2006
新保卓郎	診療ガイドラインと EBM	臨床薬理	37	15-20	2006
大西丈二、新保卓 郎	臨床疫学の基礎知識	Diabetes Frontier	16	89-94	2005
福岡敏雄	エビデンスを探し、活 かす 論文の批判的吟 味の方法と臨床実践へ の適応	呼吸器ケア	3 巻 9 号	932-941	2005

IV 研究班名簿

研究班員名簿

区分	名前	所属
主任研究者	福井 次矢	聖路加国際病院 院長
分担研究者	新保 卓郎	国立国際医療センター研究所 医療生態学研究部 部長
	小山 弘	京都大学医学部附属病院 総合診療科 講師
	松井 邦彦	熊本大学医学部附属病院 総合臨床研修センター 講師
	山城 清二	富山医科薬科大学 総合診療部 教授
	中村 清吾	聖路加国際病院 乳腺外科 部長
	福岡 敏雄	名古屋大学大学院医学系研究科 救急・集中治療医学 助手
	平 憲二	京都大学医学部附属病院 総合診療科
	前田 健次	国立長寿医療センター研究所
研究協力者	青木 則明	テキサス大学健康情報科学大学
	斉藤 繭子	聖路加・ライフサイエンス研究所
	小野寺 睦夫	名古屋大学医学部附属病院 救急部
	小林 志津子	国立国際医療センター研究所 医療生態学研究部
事務局		聖路加国際病院 教育・研究センター 研究管理部 〒104-8560 東京都中央区明石町9-1 電話 03-5550-2423